

令和7年度  
災害廃棄物処理対応強化事業企画運営業務  
報告書  
(仮置場設置・運営訓練)

令和8年3月

日本エヌ・ユー・エス株式会社・株式会社東和テクノロジー  
共同企業体



# 目 次

1. 業務の目的及び概要	1
1.1 目的	1
1.2 履行期間	1
1.3 業務概要	1
2. 実施報告	3
2.1 事前準備	3
(1) 実施計画	3
(2) 訓練シナリオの作成	8
(3) 資機材の準備	17
2.2 訓練	18
(1) 開会挨拶	18
(2) グループワーク①	19
(3) 仮置場設置訓練	19
(4) 仮置場運営訓練	19
(5) 災害廃棄物搬出訓練	20
(6) グループワーク②	21
(7) 講評	22
(8) 閉会挨拶	23
(9) アンケート	24



# 1. 業務の目的及び概要

## 1.1 目的

近年、全国的に大雨や地震による災害が頻発しており、青森県（以下、県という。）でも令和3年、令和4年と連続して豪雨災害により、大量の災害廃棄物が発生した。災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理するためには、市町村単体ではなく、県全体での対応力の底上げを図る必要があることから、平時からの「仮置場の設置・運営訓練の実施」を通じて、官民連携した実践的能力の向上及び災害廃棄物処理に係る初動対応の強化を図るものである。

## 1.2 履行期間

契約締結日から令和8年3月13日（金）まで

## 1.3 業務概要

開催概要は表 1-1、訓練会場位置は図 1-1 に示すとおりである。

仮置場設置・運営訓練は黒石市の黒石運動公園東側駐車場において、令和7年10月24日に実施した。

参加者64名のうち、訓練参加の50名は5グループに分けて訓練を実施した。

訓練終了後にはアンケートを実施した。アンケートは図 1-2 に示すとおりである。

表 1-1 開催概要

開催自治体	黒石市
開催場所	黒石運動公園（黒石市緑ヶ丘182）
開催日時	令和7年10月24日（金）13:00～16:00
参加人数	64名 事務局5名（青森県職員4名、黒石市職員1名）、市町村・一部事務組合・県関係課33名、青森県関係団体18名、黒石市関係事業者8名

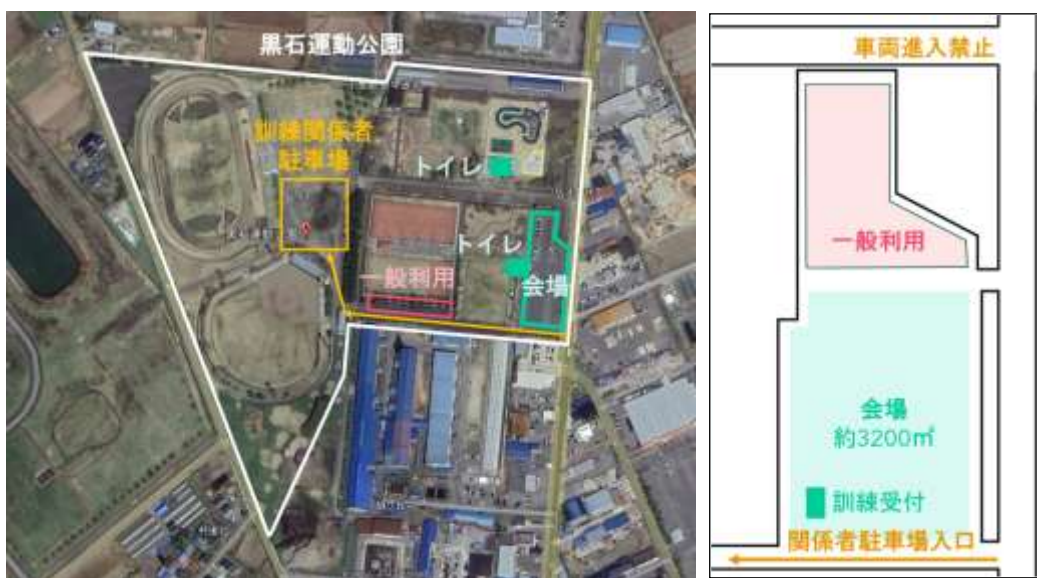


図 1-1 訓練会場地図

令和7年度 青森県災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 アンケート

自治体名・ご所属： \_\_\_\_\_

参加者氏名： \_\_\_\_\_

問1. 実地での対応の全体像はイメージできましたか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない  
(理由： \_\_\_\_\_ )

問2. 実地における対応の課題を認識できましたか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない  
(理由： \_\_\_\_\_ )

問3. 他自治体・協定締結団体との関係構築に役立ちましたか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない  
(理由： \_\_\_\_\_ )

問4. 訓練に対する満足度はいかがですか。

1. とても満足 2. 満足 3. どちらともいえない 4. 不満 5. とても不満  
(理由： \_\_\_\_\_ )

問5. 今後、災害廃棄物に関連して希望する研修・支援等がありますか。

1. 講義・セミナー 2. グループ形式の研修 3. 仮置場実地訓練  
4. 図上演習（机上訓練） 5. 計画策定・改定支援 6. マニュアル等整備支援  
7. その他（ \_\_\_\_\_ ）

問6. （自治体職員のみ）訓練を踏まえ、ご自身の自治体での課題や今後必要と考える対策があれば記載してください。

問7. 訓練内容・事務局の運営についてご意見があればご記載ください

ご協力ありがとうございました。

図 1-2 アンケート

## 2. 実施報告

### 2.1 事前準備

#### (1) 実施計画

実施計画書は以下に示すとおりである。

### 令和7年度災害廃棄物処理対応強化事業企画運營業務委託 訓練計画書

#### 1. 訓練の概要

青森県、黒石市及び県内廃棄物処理業者等が連携し、黒石市における仮置場候補地を対象として、仮置場の設置や管理運営に係る実地訓練を実施する。

##### 目的

- ・ 県全体での対応力の強化
- ・ 官民連携した実践能力の向上
- ・ 災害廃棄物に関わる初動対応の強化

#### 2. 実施場所

青森県黒石市黒石運動公園 東側駐車場



#### 3. 実施日時

令和7年10月24日（金） 13:00～16:00

#### 4. 講師

国立環境研究所資源循環領域 高田光康 客員研究員

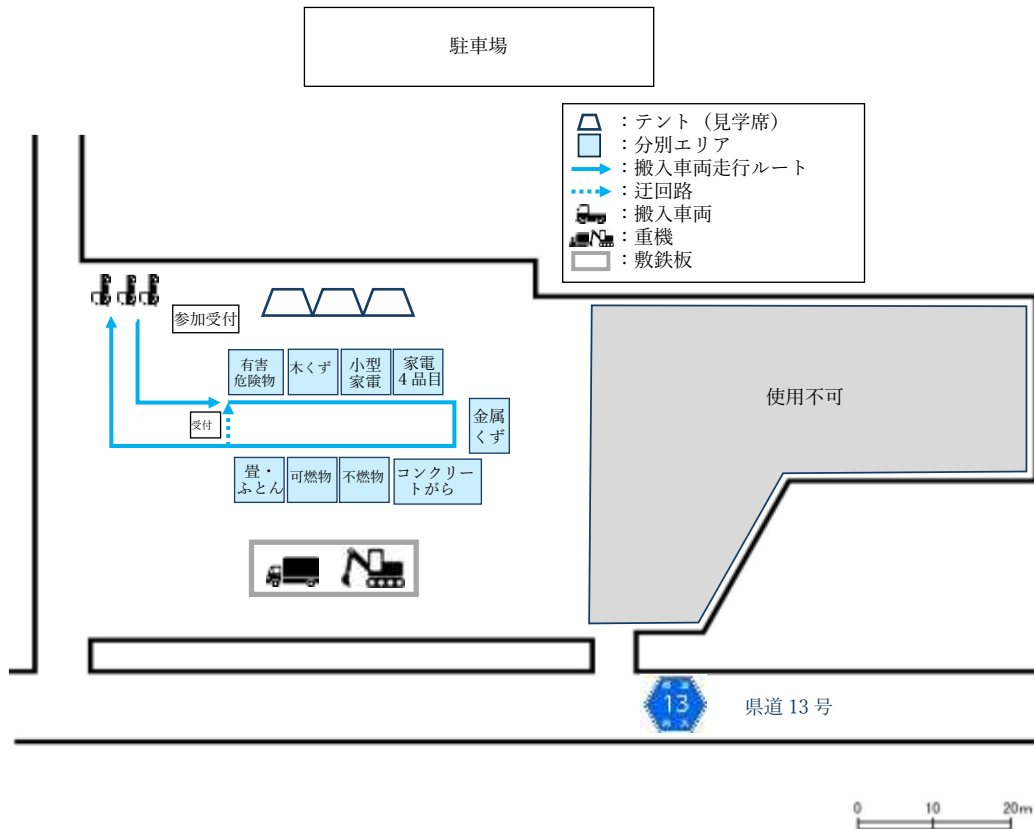
<略歴>

元神戸市職員。阪神・淡路大震災では災害廃棄物処理担当者として対応。東日本大震災では国立環境研究所の立場で、様々なサポートを実施。現在は、災害廃棄物分野の有識者として国や各自治体の研修や検討会等で有識者等参加。

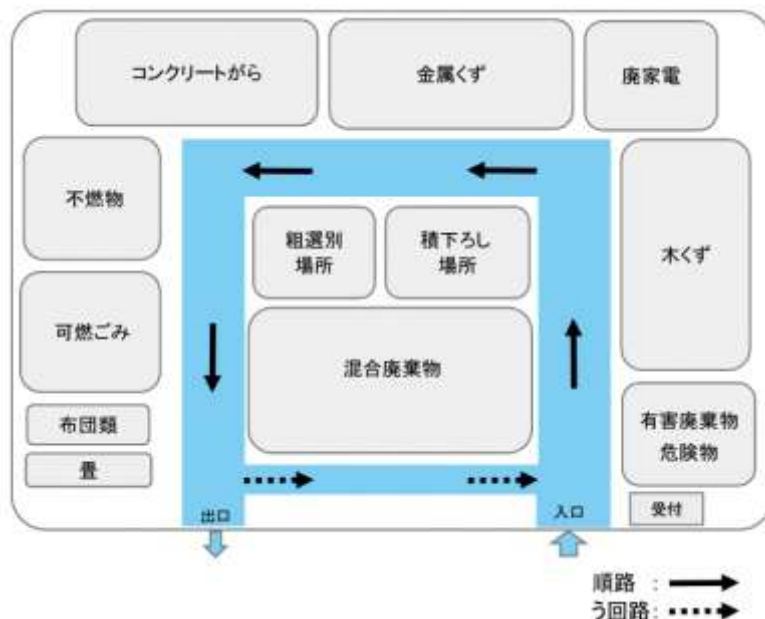
5. 会場レイアウト

仮置場レイアウト案を以下に示す。

仮置場の分別は「青森県災害廃棄物処理計画」等を参考とし、①有害・危険物、②木くず、③小型家電、④家電4品目、⑤金属くず、⑥コンクリートがら、⑦不燃物、⑧可燃物、⑨畳・ふとんの9区分とし、それぞれの区画は5～6m四方程度とする。



<参考>青森県災害廃棄物処理計画 一次仮置場のレイアウト例



## 6. 参加者のグループ分け

参加者は1グループ6名程度を目安にグループ分けを行う。グループ内は今後の災害廃棄物処理における協力体制や人脈作りを考慮し、近隣地域の自治体と同じグループになるよう配慮する。

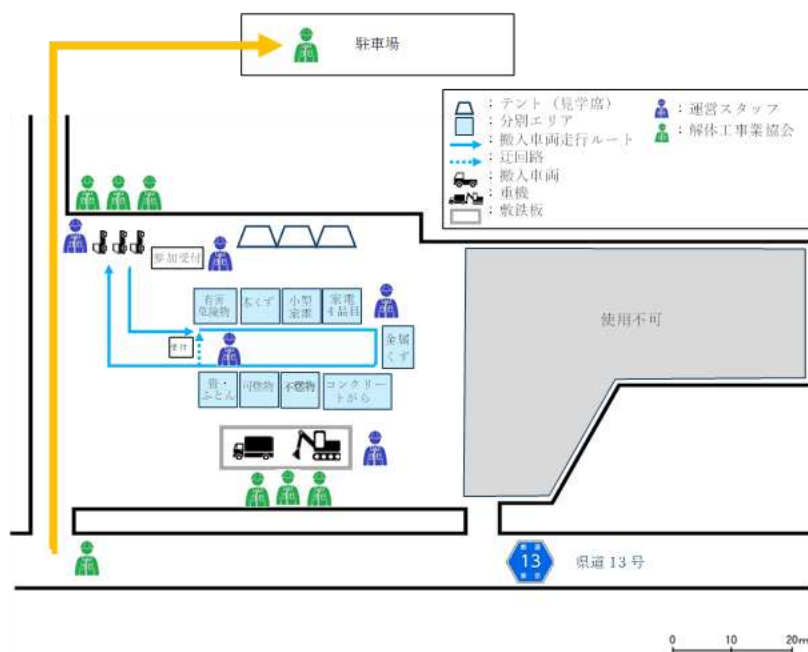
## 7. 模擬ごみ・資材

災害廃棄物受入訓練で使用する模擬ごみは黒石市に提供の協力をいただくが、準備の困難なものについては段ボールで代用する。段ボール代用ごみについては、2Lペットボトルを内部に固定して重量をもたせるものとする。

## 8. スタッフ配置

運営スタッフには運営（日本エヌ・ユー・エス株式会社・株式会社東和テクノロジー共同企業体）から5名、青森県解体工事業協会から車両運転、重機オペレーター、及び交通誘導員として8名にご協力をいただくこととする。

役割	主な作業	場所	人数	担当
交通誘導	開場・閉場時の駐車場への誘導	入口・駐車場	2名	解体工事業協会
搬入車両運転	軽トラの運転	軽トラ	3名	運営（JANUS・東和）
重機オペレーター	重機デモンストレーション ・運営補助	重機 仮置場内	6名	解体工事業協会
参加受付・ 進行補助	受付（名簿チェック、資料配布）、 進行補助	受付・ 仮置場内	2名	運営（JANUS・東和）
全体進行	全体の工程管理	仮置場内	1名	運営（JANUS・東和）
訓練の解説	搬入訓練の実況・解説、搬出訓練時 の解説	仮置場内	1名	運営（JANUS・東和）
進行補助	進行補助	仮置場内	1名	運営（JANUS・東和）



## 9. 訓練の概要

### 9. 1 全体スケジュール

事前準備として 23 日（木）にテント等の資材の受け取り、模擬ごみの確認、段ボールごみの組み立て等を実施し、現地にてレイアウトの確認を行う。

#### 【10月23日（木）】

時間	次第	内容
15:00	事前準備	・資材の受取、確認 ・レイアウトの現地確認 ・模擬ごみ（段ボール）の組み立て ・模擬ごみ（黒石市）の確認 ・テントおもりへの水を入れる ・（看板に紙をはる）
17:00	運動公園閉館	・資材を現地倉庫に
17:30	訓練場所の確保	・一般利用者の車両が駐車されないよう会場を閉鎖

#### 【10月24日（金）】

時間	次第	内容
9:00	当日準備	・テント、イスの組み立て・設置 ・音響設備の設置 ・軽トラックへの積み込み ・受付設置 ・敷鉄板、重機の設置 ・軽トラックの走行ルートに参加者が立ち入らないよう三角コーンを設置
12:30	開場	・受付開始
13:00	訓練開始	① 開会挨拶・オリエンテーション ② 役割決め、レイアウト確認 ③ 仮置場設置訓練 ～休憩～ ④ 災害廃棄物受入訓練 ⑤ 災害廃棄物搬出訓練 ⑥ 振り返り、全体発表 ⑦ 講評 ⑧ 閉会挨拶
16:00	片付け	・三角コーン、テント、音響設備、模擬ごみ等の撤去
17:00	閉場	

### 9. 2 訓練の内容

#### ① 開会挨拶、オリエンテーション

主催者による開会挨拶ののち、訓練の目的、仮置場設置における注意点、本日の仮置場設置・運営訓練における想定と流れ等について事務局より説明を行う。

#### ② 役割決め、レイアウト確認

グループ内で仮置場運営上の役割分担（全体統括、受付係、荷下ろし補助・分別指導係、交通誘導係 等）及びレイアウト上での各係の配置について話し合い、決定する。

③ 仮置場設置訓練

9分別区分の仮置場を設置する。各グループに割り当てた分別区分のスペースに、ブルーシート、三角コーン、コーンバー、工事用看板の設置と分別表示紙の貼付を行う。

④ 災害廃棄物受入訓練

グループは搬入者（住民役）と受入側（仮置場運営役）に分かれてシナリオに沿って実施する。災害廃棄物の受入シナリオは以下のとおり。

NO	シナリオ	A	B	C	D	E
1	被災住民。片付けに手一杯で分別する余裕がなく、とにかく持ってきた。	受入				搬入
2	積み込みのごみも少ないので、前の車を追い越したいと受付に迫る住民	受入				搬入
3	高齢の母が被災したため片付けの手伝いに来た。ついでに2階も整理し、不用品ももってきた。	搬入	受入			
4	長時間待たされて不満を持っている住民	搬入	受入			
5	隣町から来た災害ボランティア。被災者に頼まれたものをもってきており、何を積んでいるか把握していない。		搬入	受入		
6	持ち込み不可の生活ごみを持ってきて受付でごねる		搬入	受入		
7	チラシに掲載されていた分別ルールに従い、分別してきた。			搬入	受入	
8	仮置場の場所が遠い クレームが出た			搬入	受入	
9	美容室を経営。店舗が浸水。店舗部分で発生したごみも持ってきた。				搬入	受入
10	隣町の自宅からごみを持ってきた住民				搬入	受入

⑤ 災害廃棄物搬出訓練

重機（バックホウ、アームロール車）による災害廃棄物の積み込みのデモンストレーションを実施する。訓練実施時には、④災害廃棄物受入訓練の際の役割に基づき、搬出するごみの指示、重機周辺の安全確認、積み込み確認および写真撮影の係に分かれ、それぞれの作業を確認しながら進行する。

⑥ 振り返り・全体発表

訓練を通しての気づき、課題と想定される対策等についてグループ内で意見交換を行い、グループごとに全体発表を行う。

⑦ 講評

国立環境研究所高田光康客員研究員より訓練全体の講評をいただく。各グループの訓練での動きや振り返り等に対するコメント、および自治体職員として必要な対応、必要な心構え等についてお話をいただく。

10. その他

訓練の内容を後日青森県 HP で公開するための動画を撮影する。また、実施後は参加者に対して、訓練を通しての実務における課題や対策、工夫などの気づき、訓練に対する要望や改善点等についてのアンケート調査を実施し、取りまとめを行う。

## (2) 訓練シナリオの作成

参加者配布用の訓練シナリオは以下に示すとおりである。

### 令和7年度 青森県災害廃棄物 仮置場設置・運営訓練

日付：令和7年10月24日(金)  
時間：13時から16時まで  
場所：黒石市 黒石運動公園



### 訓練会場について（黒石運動公園）

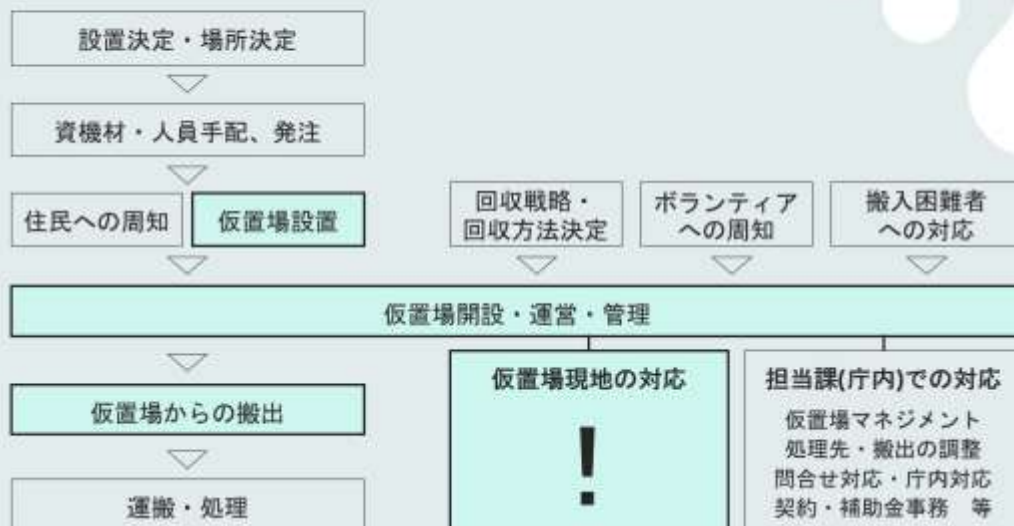
※一般利用者へのご配慮をお願いします。



## 1. スケジュール

時間	内容
13:00~13:10 (10分)	開会・オリエンテーション
13:10~13:30 (20分)	グループワーク① (レイアウト確認・人員配置検討)
13:30~13:40 (10分)	仮置場設置訓練
13:40~13:50 (10分)	休憩
13:50~15:10 (80分)	災害廃棄物受入訓練
15:10~15:20 (10分)	災害廃棄物搬出訓練
15:20~15:40 (20分)	グループワーク② (気づき・課題の共有) ・全体発表
15:40~15:55 (15分)	講評 国立環境研究所 高田光康氏
15:55~16:00 (5分)	閉会

## 2. 訓練の対象範囲



### 3. 訓練の目標

- (1) 実地での対応の全体像を理解する（イメージを持つ）。
- (2) 仮置場の設置・運営における課題を理解・認識する。
- (3) 自治体間・協定締結団体等との連携を確認する。

### 4. 想定する災害

- ✓ 大雨による「水害」（家屋床上浸水が多数発生）を想定します。
- ✓ 水害時は、地震災害に比べ速やかな仮置場の設置が求められます。



出典：青森県HP「令和4年発生災害の概要」



出典：環境省災害廃棄物対策情報サイト

## 5. 仮置場の管理・運営に必要な業務内容

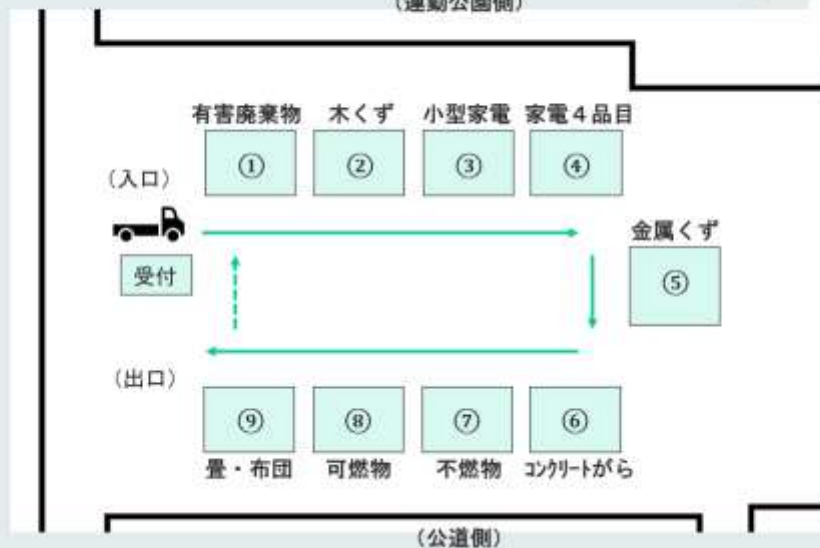
✓ 8月の研修を受講された方は、その内容を思い出してみてください。

必要な業務内容（一例）

受入・搬出	受入：人員・資機材確保、住民・ボランティア周知、便乗ごみ対策、渋滞対策 等 搬出：処理先調整、搬出車両・重機確保、搬出時の場内安全確保 等
分別	分別：処理を見据えた分別区分の設定、レイアウト作成、分別徹底（分別補助員等）、住民・ボランティア周知、有害廃棄物等の取扱い 等
安全・環境	安全：場内(搬入者)の安全確保、作業者の安全管理、防火対策、渋滞対策 等 環境：有害廃棄物・廃材(アスベスト)への対応、飛散防止対策、粉塵・騒音対策 等
その他	事業者への支援要請（協定の活用）、事業者との契約、搬入量・搬出量管理（処理先確保・受入調整・仮置場追加）、補助金申請対応（写真・記録の作成・保管） 等

## 6. 訓練で使用するレイアウト

(運動公園側)



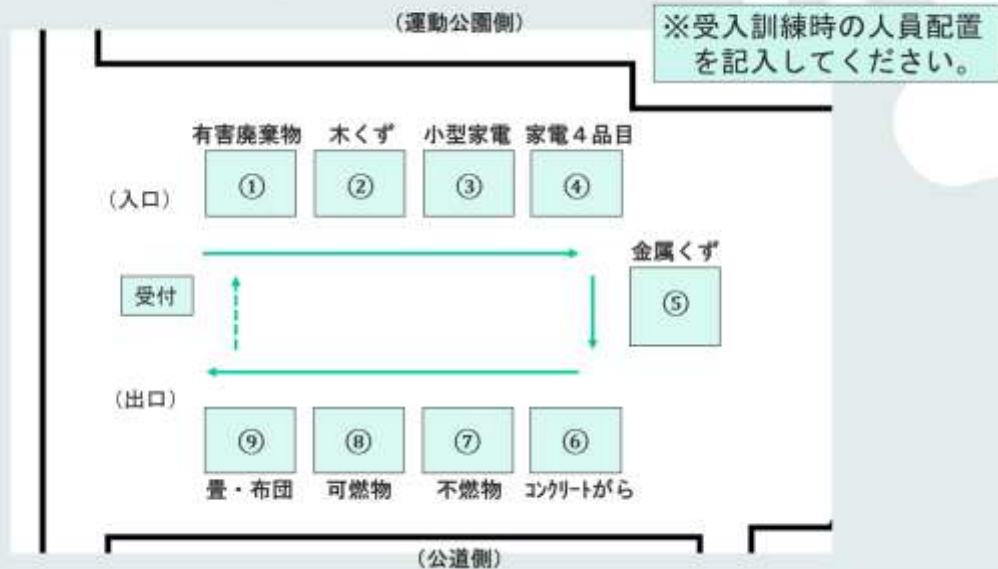
## 7. グループワーク① (20分)

グループワーク

- ✓ 訓練で使用する仮置場レイアウトを確認してください。また、本レイアウトでの受入の流れを確認してください。
  - ✓ 受入訓練実施時の人員配置を決めてください。また、受入時に、各人員が「何に、どのように」対応するかを話し合ってください。
- ※ 話し合いの内容をもとに、グループごとに受入訓練を行います。

## 8. グループワーク① (20分)

オリエンテーション



## 9. (参考) 仮置場の人員配置

人員配置（青森県「令和7年度災害廃棄物処理に係る研修会」（8月26日開催）資料抜粋）

- 現場責任者：仮置場全体の管理（安全管理、空き状況把握、連絡調整等）
- 受付：搬入物の確認（質・量）
- 誘導員：交通整理（出入り口での車両誘導・場内の誘導）
- 補助員：荷下ろしの補助、分別の確認・指導
- 警備員：受入時間外の警備（不法投棄や盗難防止）＜※本訓練では配置不要＞

仮置場での受入及び分別指導（「災害時の一般廃棄物処理に関する初動対応の手引き」抜粋）

- 片付けごみか等を確認して受け入れる。分別されていない場合は、仮置場で分別して荷下ろしするように指導する。
- 補助金申請の資料となる日々の受入台数や搬出量を記録するとともに、適宜写真を撮影する。
- 仮置場が満杯とならないよう、仮置場からの搬出先の調整を始める。特に以下のような搬入量の多い品目は優先して行う。  
（地震の場合）可燃物、木くず、不燃物、コンクリートガラ、割れたガラスや食器、陶器類等  
（水害の場合）廃畳、廃家電、木くず、金属くず、がれき交じり土砂等
- 仮置場の管理・運営は早期に民間事業者に委託し、住民対応は職員が対応する。

## 10. 仮置場設置訓練

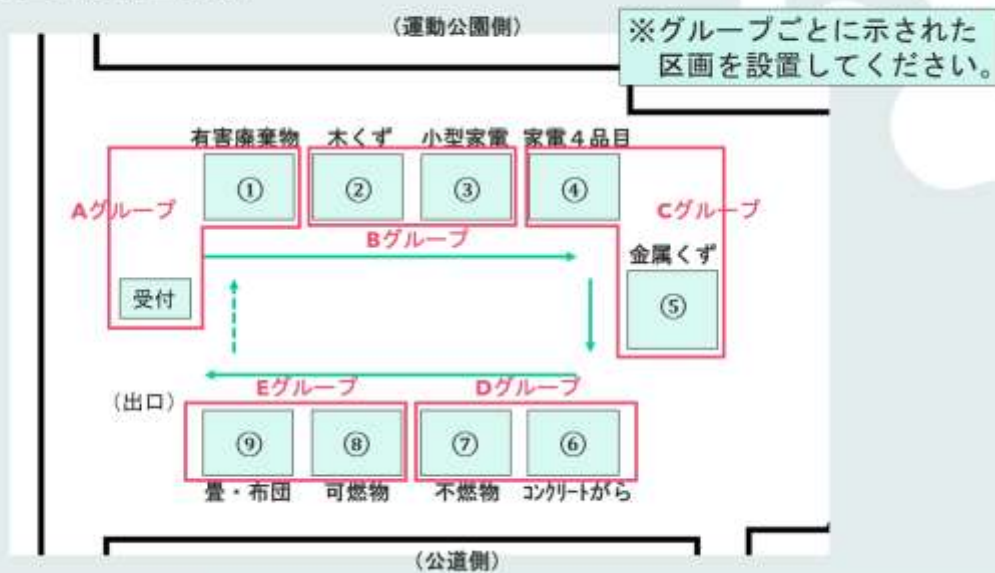
- ✓ レイアウトのとおり、全参加者で仮置場を設置してください。
- ✓ カラーコーン、コーンバー、看板を配置してください。
- ✓ 受付には、机、受付票、チラシを設置してください。
- ✓ 補助金申請や現状復旧を見越し、現場写真を撮影してください。

設置イメージ



## 11. 仮置場設置訓練

設置訓練



## 12. 災害廃棄物受入訓練

受入訓練

- ✓ グループごとに受入・搬入・見学を、順に5セット行います。
- ✓ 見学時は、実施・見学しての気づき等をメモしてください。

訓練の順番

グループ	第1セット (車両①②)	第2セット (車両③④)	第3セット (車両⑤⑥)	第4セット (車両⑦⑧)	第5セット (車両⑨⑩)
A	受入	搬入	見学	見学	見学
B	見学	受入	搬入	見学	見学
C	見学	見学	受入	搬入	見学
D	見学	見学	見学	受入	搬入
E	搬入	見学	見学	見学	受入

## 13. 災害廃棄物受入訓練

実施順	搬入者概要
第1セット	車両①：被災住民。1階が浸水し、家具、家電、生活雑貨のごみが発生。片付けに手一杯で分別する余裕がなく、とにかく持ってきた。 車両②：持ち込みのごみも少ないので、前の車を追い越したいと受付に迫る住民
第2セット	車両③：被災者の親戚。高齢の母が被災したため片付けの手伝いに来た。ついでに2階も整理し、不用品も持ってきた。 車両④：長時間待たされて不満を持っている住民
第3セット	車両⑤：隣町から来た災害ボランティア。被災者に頼まれて持ってきたものの、何を積んでいるか把握していない。 車両⑥：持ち込み不可の生活ごみを持ってきて、受付で引き返さない住民
第4セット	車両⑦：被災住民。1階が浸水。もらったチラシに掲載されていた分別ルールに従い、分別してきた。 車両⑧：仮置場の場所が遠いと苦情を申し立てる住民
第5セット	車両⑨：美容室を経営。店舗が浸水。浸水した店舗部分のごみももってきた。また、同じく被災した自宅からもごみを持ってきた。 車両⑩：隣町の被災住民。自宅から近いこちらの仮置場にごみを持ってきた。

## 14. 災害廃棄物搬出訓練

✓ 敷鉄板の確認、ごみ積込みのデモンストレーションを行います。



出典：環境省災害廃棄物対策情報サイト

## 15. グループワーク②（話し合い10分、発表10分）

✓ グループで、以下について、訓練の振り返りをお願いします。

- （1）仮置場の実地での対応に関する気づき
- （2）課題として感じたこと、対策として考えたこと
- （3）平時から対応・準備できること

※ 話し合いの後、各グループから内容を発表いただきます。

### (3) 資機材の準備

資機材リストは表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 資機材リスト

#### 【車両等】

品目	数量	備考
軽トラック	3 台	青森県解体工事業協会
フォーク付きバックホウ	1 台	青森県解体工事業協会
コンテナ付きアームロール車	1 台	青森県解体工事業協会

#### 【設置機材】

品目	数量	備考
テント	3 台	
テント用ウエイト	36 個	
受付用テーブル	1 台	
パイプイス	100 脚	
屋外用音響機材	1 式	
ワイヤレスマイク	3 本	

#### 【訓練用機材】

品目	数量	備考
カラーコーン		青森県解体工事業協会
立て看板		青森県解体工事業協会
敷鉄板		青森県解体工事業協会
ブルーシート		
ビブス		
参加者配布用資料		
仮置場受付用テーブル	1 台	
仮置場受付用パイプイス	2 脚	
模擬ごみ	適量	当日調整
模擬ごみ用ダンボール	適量	当日調整

## 2.2 訓練

### (1) 開会挨拶

最初に青森県環境エネルギー一部資源循環推進課三浦課長、開催自治体である黒石市総務部中田部長に開会の挨拶をいただいた。

青森県環境エネルギー一部資源循環推進課 三浦誓也課長

近年、能登半島地震をはじめ全国的に地震や大雨による災害が頻発しております。本県でも令和3年、令和4年と連続して大雨被害を受け、大量の災害廃棄物が発生しているため、災害廃棄物処理についての対応能力の向上がますます重要となっています。

本県では、令和元年度から市町村職員を対象とした座学による研修会を毎年実施してきましたが、昨年度からはより実践的な訓練を実施しており、昨年の八戸市に続き今年は黒石市において開催することとなりました。

災害廃棄物の適切かつ迅速な処理のためには仮置場の速やかな設置と適正な運営が重要ですが、実際の経験がないとなかなかイメージが掴めないと思います。本日は模擬仮置場を設置し、住民からさまざまな災害廃棄物が持ち込まれることを想定した訓練を実施します。本訓練が、災害が発生した際の地域の皆様、ならびに本県全体の対応力向上に資することを期待いたします。



黒石市総務部 中田憲人部長

黒石市では19日に追子野木地区において市総合防災訓練を実施し、地震による建物の倒壊や火災、ライフライン被害の想定のもと、公民館の体育館で避難所の設置・運営や炊き出し訓練を行い、地域防災力の向上に取り組んでいるところです。しかし、実際に大規模災害が発生した場合、必ず災害廃棄物が発生し、自治体は仮置場の速やかな設置と適正な運営が求められます。

今回、青森県産業資源循環協会をはじめ、民間事業者の皆様と行政が連携のもと、模擬仮置場を設置してより実践的な訓練が実施されます。ご参加の皆様は得られた経験・知識を持ち帰り、県全体において地域防災力の向上が図られることを期待いたします。



## (2) グループワーク①

グループごとに資材の配置、役割分担を検討し、仮置場レイアウトをもとに、人と資材の配置を検討した。

### 【検討事項】

- ・人の役割分担と配置（受付係、現場責任者、誘導員、補助員 等）
- ・三角コーン、看板の設置位置



写真 2-1 グループワーク①

## (3) 仮置場設置訓練

仮置場レイアウトをもとに、各グループで設営を実施した。設営はグループごとに担当を決め、参加者全員で1つの仮置場を設置した。

### 【設置物】

- 受付：受付用テーブル、イス、受付用紙、筆記用具  
置場：三角コーン、コーンバー、ブルーシート、立て看板



写真 2-2 仮置場設置訓練

## (4) 仮置場運営訓練

グループごとに住民役、仮置場運営役に分かれ、住民役のグループがごみを持ち込み、仮置場運営役がごみの受け入れを行った。住民役には受付や置場でクレームを入れる、持ち込み困難なものを持ち込むなどの役割を演じてもらい、仮置場運営役はそ

これらの対処を行った。住民役と仮置場運営役のやりとりはワイヤレスマイクを用いて会場全体に音声を流して、他のグループにも流れが分かるように配慮した。



写真 2-3 仮置場運営訓練

#### (5) 災害廃棄物搬出訓練

青森県解体工事業協会のご協力のもと、仮置場使用重機のデモンストレーションを実施した。アイアンフォーク付きバックホウで廃棄物をコンテナ付きアームロール車のコンテナに積み込む様子を再現しながら、現場での重機の使用方法等について解説いただいた。



写真 2-4 災害廃棄物搬出訓練

## (6) グループワーク②

訓練の終了後に、訓練の振り返りのためのグループワークを実施した。  
グループワーク②での各グループの発表内容は、表 2-2 に示すとおりである。

表 2-2 グループワーク②

A	<ul style="list-style-type: none"><li>・看板の文字だけでごみをイメージしづらい。イラストのある看板があるとわかりやすい。</li><li>・分別区分を住民に SNS、チラシ等を活用して速やかに周知する必要がある。</li><li>・自治体についても分別ルールについてしっかり認識しておく必要がある。</li></ul>
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・他市町村のごみなど、持ち込みや受け入れできないごみもあり、受け入れ側も判断に迷う。マニュアルが必要。</li><li>・受付と誘導員、補助員の連携が必要。</li><li>・事前に住民に分別区分や仮置場の位置を示したチラシを配布したり、SNS で発信すると効果的。</li></ul>
C	<ul style="list-style-type: none"><li>・受付で分別チラシを活用するとよい。トラブルを防ぐために詳しく分かりやすいチラシを作る必要がある。</li><li>・ごみの中身まで確認する必要がある。</li><li>・分別の判断が難しい。表やイラストなど目でみてわかる資料作りも大切。</li><li>・分別の判断の難しいものを仮に置く場所を設けることも渋滞緩和につながる。</li><li>・仮置場候補地を普段から検討しておく必要がある。</li><li>・住民への仮置場の位置や分別ルールの周知を円滑に実施する方法を普段から考えておくことが重要である。</li></ul>
D	<ul style="list-style-type: none"><li>・仮置場の適正な人員数、人員配置を普段から検討する。</li><li>・受付票の様式の工夫、事前配布、品目をわかりやすく示す工夫、事前周知が重要。</li><li>・冷蔵庫の中身など細かい点も確認が必要。</li></ul>
E	<ul style="list-style-type: none"><li>・受付で対応に時間がかかると渋滞が生じる。体制作りが必要。</li><li>・分別の方法などわかりやすく示したチラシを作成して住民に配布するとよい。</li></ul>

## (7) 講評

仮置場設置・運営訓練全体の講評を国立環境研究所高田氏よりいただいた。

国立環境研究所資源循環領域 高田光康 氏

本日のシナリオはこれまでの仮置場で実際におきた問題、クレームから作成されているので、被災した場合に仮置場で実際に起こる可能性がある。対応に正解・不正解が明確でないものもあるが、ご自分の自治体でどう対応するかを普段から考えておくとよい。

仮置場の看板に番号があると、仮置場の運営では役に立つ。

ブルーシートは実際の仮置場では必ずしも使用しない。舗装がない場所では敷鉄板を敷くことがあり、廃棄物の置場にも敷鉄板を置くこともある。シートは油漏れや水漏れが発生することがあるため、万能ということではなく、雨がかからないなど工夫も必要。

畳、布団は土の上におくと水を吸ってしまうため、パレットなどの上に積んでおくとよい。フォークリフトでも搬出しやすい。

廃棄物の発生量や重さ、種類によっては場所をとるものもあることから、土地の配分も考慮が必要。災害廃棄物の分別は普段のごみの分別と異なるため、住民に伝わりにくい場合があることから、普段の分別をベースにしながら分別ルールを決めておくと混乱が少ない。木くずと可燃物は自治体によってルールを決め、そのまま焼却ピットに入れるものは可燃物、焼却の前に処理が必要なものは木くずに分類する方法も考えられる。複数の素材からなる廃棄物は処理方法をイメージしながら区分を考えているとよい。

仮置場で渋滞が生じる原因には受付渋滞と荷下ろし渋滞がある。どこに時間がかかっているかを見て人の配置を変えるなどして効率化していく必要がある。過去には1日に700台を受け入れた例があるが、その場合は1時間に100台近く受け入れる必要がある。受付に1分かかると60台しか受け入れられないことから、スムーズに受付を終わらせる工夫が必要になる。入場する車と退場する車が同じ数になるように運営できると、時間内に大量の車を受け入れることができる。円滑に運営していくためには運営の状況にあわせて人の配置や対応を検討していく必要がある。

仮置場の運営・管理に民間事業者との協力・連携が必要になる。顔の見える関係を構築し、普段から連携しておくとよい。



## (8) 閉会挨拶

最後に、青森県解体工事業協会 小野代表理事、青森県環境エネルギー部資源循環推進課 三浦課長に閉会の挨拶をいただいた。

青森県解体工事業協会 小野智史代表理事

災害はなけないほうがいいが、実際に起こった時にどうするか、が本日の訓練だった。能登半島地震が発生した1月は青森も降雪の時期。降雪時の対応も考えながら、今後の課題を検討しつつ、本日の訓練を糧に県民へ周知していただき、発災時のスムーズな対応につなげていただければと思う。団体としても本日の訓練をもとにご協力できれば、と考えている。



青森県環境エネルギー部資源循環推進課 三浦誓也課長

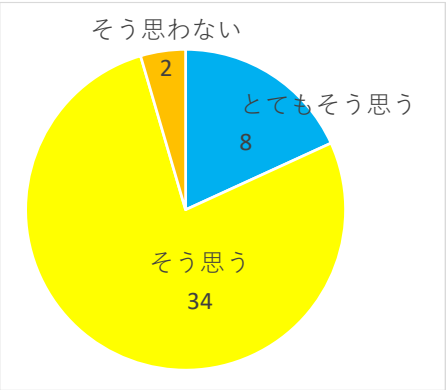
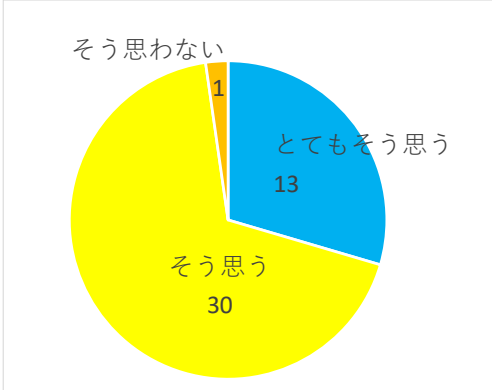
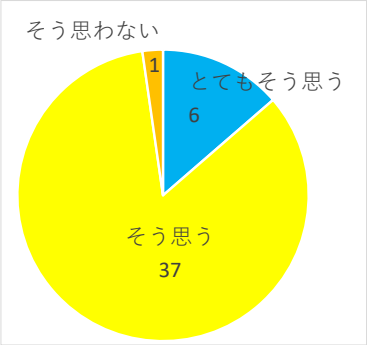
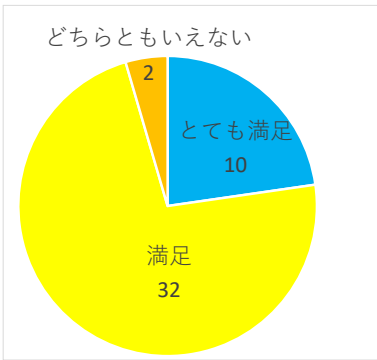
本日の訓練の内容をそれぞれの自治体に共有いただき、発災時の備えに役立てていただきたい。



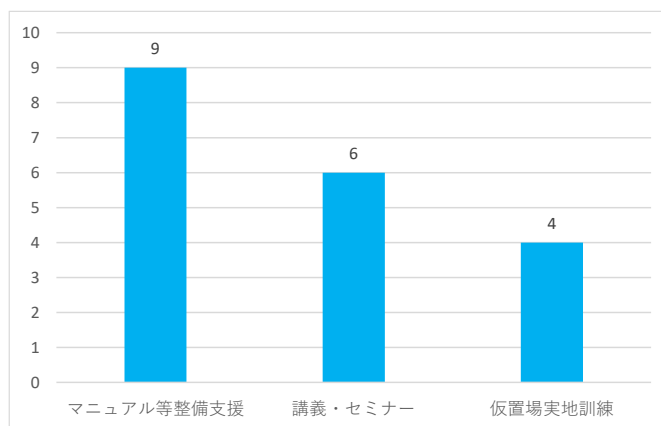
## (9) アンケート

アンケートの結果は表 2-3 に示すとおりである。

表 2-3 アンケート結果

<p>1. 実地での対応の全体像がイメージできた</p>  <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●とてもそう思う           <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置や運営の流れを実践してイメージが強くなった。</li> <li>・一連の流れを体験し、人員や作業をイメージできた。</li> </ul> </li> <li>●そう思う           <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場を見てイメージできた。</li> <li>・現場の空気感を感じられた。</li> <li>・一連の流れを実践したこと</li> <li>・自分で体験できた。</li> </ul> </li> </ul>	<p>2. 実地における対応の課題を認識できた</p>  <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●とてもそう思う           <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンパワーの必要性や日頃の周知の必要性等。</li> <li>・実際に不都合に感じた所が多く、対策を考えるいい機会となった。</li> <li>・受付と分別の周知の重要性を認識した。</li> <li>・受付が一番時間がかかるので工夫が必要と分かった。</li> <li>・受付の対応や分別方法など、分からないことが多かった。</li> <li>・連携が大切だと感じた。</li> </ul> </li> <li>●そう思う           <ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい事例について実感できた。</li> <li>・普段の分別と災害時の分別の違いを認識した。</li> <li>・自分で体験できた。</li> </ul> </li> </ul>
<p>3. 他自治体・協定締結団体との関係構築に役立った</p>  <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●とてもそう思う           <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な団体が参加し、情報交換の場となった。</li> <li>・近隣自治体との連携が重要と思った。</li> <li>・交流の場となった。</li> </ul> </li> <li>●そう思う           <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣自治体の担当者と顔をあわせて話せた。</li> </ul> </li> </ul>	<p>4. 訓練の満足度</p>  <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●とても満足           <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしづらい現場を実感できた。</li> <li>・定期的実践訓練することがとても重要。</li> <li>・説明が分かりやすかった。</li> </ul> </li> <li>●満足           <ul style="list-style-type: none"> <li>・段取りの部分が分かればとても良かった。</li> <li>・一連の流れを体験できた。</li> </ul> </li> </ul>

## 5. 今後、希望する研修・支援等



## 6. 自身の自治体での課題や今後必要と考える対策

- ・ 平時からの備え（市民への周知、職員用のマニュアルの作成）が重要。
- ・ 災害時のトイレ問題と同様、住民生活に不可欠なごみ処理対策、道路の確保をライフラインと同じレベルで考える必要があるとあらためて感じた。
- ・ 担当課との情報連携の方法をあらかじめ決めておく必要がある。
- ・ 仮置場の選定、設置運営の委託先確保。
- ・ 事前に対策やマニュアルを整備しておく必要がある。
- ・ 日頃から災害に備えて仮置場設置のイメージをしていく。
- ・ 人員確保、受付の処理、仮置場の事前選定等が課題。
- ・ 仮置場を設置する際のマニュアルを作成しておくことよい。
- ・ 分別方法の基準を決めること。
- ・ 仮置場の確保、周知の方法について考えなければと思った。
- ・ 近隣自治体との連携。
- ・ 収集したごみが集まった時の対処時期・要領。
- ・ 全体の流れをイメージできることが大切だと感じた。

## 7. 訓練内容、事務局の運営についてのご意見

- ・ 訓練の進め方、段取りについて最初の段階で詳しく説明があればもっと分かりやすかった。
- ・ 毎年、市から参加したい。
- ・ 寒い。
- ・ 実際に動いてみてイメージができる良い機会になった。
- ・ 訓練の流れの説明が分かりづらかった。
- ・ 市町村自治体は人事異動などあるので、定期的な開催が助かる。
- ・ 可能であれば、南部方面、津軽方面など、近くの場所での開催を希望する。
- ・ 早い開催（9月頃）を希望。
- ・ 勉強になった。
- ・ 町会団体（住民）の長にも参加してもらえると良い。
- ・ 参加経験のない人のために説明がもう少しあると良い。
- ・ ブルーシートの大きさをそろえてほしい。

\*似た回答はまとめて記載